

株式会社 ナレロー

26年度〈事業計画名〉

ICT(情報通信技術)教育で注目の「自学自習を導入した新しい授業スタイル」の実現

Data [代表者名] 代表取締役社長 瀬戸山 光宏 [設立] 2005年7月
 [実施場所] 〒020-0021 岩手県盛岡市中央通3-1-2 盛岡第一生命ビル 8階
 TEL.019-656-1706 FAX.019-656-1709
 [URL] http://narero.com
 [資本金] 300万円
 [事業内容] 各種ソフトウェアの設計・開発、運用、販売、教育関連サービスの提供

学習ソフト「ナレロー」をクラウド化し 学ぶ意欲と効果を高める仕組みづくり

学生の学習姿勢や教職員の役割に画期的な変化をもたらす手法として、「反転授業」が注目されている。当社の学習ソフト「ナレロー」をクラウド化し、反転授業に対応できるように改良。学習効果を高める仕組みをつくとともに、海外展開への道を切り開いた。

「習うより慣れる」をコンセプトにした学習ソフトを開発、販売

当社は2002年、東北地域で最初のe-Learning（イーラーニング＝インターネットを利用した学習）を開始し、2003年に学習ソフト「ナレロー」を開発している。

ナレローとは「習うより慣れる」という言葉に由来しており、楽しみながら習得できる独創的学習スタイルの提案をコンセプトとしている。主力商品はWindowsやMicrosoft Officeの操作スキルを身につけるソフトウェアとして、全国の大学生の多くが利用している。

大学では今、ICT（情報通信技術）を活用した「反転授業」の導入が進んでいる。反転授業とは、デジタルデバイス（パソコン等）を使って家で予習し、教室では議論や演習問題など発展的な内容に取り組むものである。しかし、従来の「ナレロー」は個人個人のコンピュータにインストール（導入）して利用するため、コンテンツ（内容、

Windows や各種 Microsoft Office の基本操作から応用まで学習を可能としたソフト「ナレロー」を開発。



中身)の柔軟な提供やシステムを最新の状態に保持すること、学習ログ(学習情報)の共有ができず、反転授業には対応できなかった。そこで、教職員が学生の学習進捗状況の把握を可能とし、学生の学習効果を高めるための仕組みづくりに取り組むこととした。

ナレローをクラウド化して、効果的な学習を実現

この課題解決には、「ナレロー」のクラウド化が必要となる。クラウドとは、インターネット上のサーバーが提供するサービスをいつでも、どこでも必要な機能だけ利用できるコンピュータネットワークの利用形態をいう。クラウドサービスはさらに①インターネット経由でソフトウェアを提供する「SaaS」(Software as a Service：サーズ)。②アプリケーションを実行するための環境を提供する「PaaS」(Platform as a Service：



自分の頑張り具合を可視化できるグラフ機能や、クラス順位を把握できるランキング表示など、学生の学習意欲を高める工夫を凝らしている。

パース)。③ハードウェアや回線などの「インフラ」をインターネット経由で提供する「IaaS」(Infrastructure as a Service：イアース)の3種に分類され、今回のクラウド化は「PaaS」にあたる。そこで、「ナレロー」をクラウドプラットフォーム(ソフトウェアが動作するためのインターネット上の土台・基盤)に配置し、クラウド化を実現した。さらに、学生の学習効果を高めるため、クラス内での頑張り具合を可視化できる「ランキング」な

どの仕組みもクラウド化に盛り込んだ。

それと併行して、大学教職員への訴求効果を高めるため、岩手大学との共同研究によりパッケージ等のデザインを検討し、アカデミックなイメージを醸し出すよう工夫を行った。

また、青森公立大学で情報リテラシー(知識、能力)教育に「ナレロー」を使っていたいただき、実際の学習効果を客観的に測定し、品質の検証を実施した。

クラウド化により、もたらされた海外展開への道

現在、「ナレロー」クラウド版は全国の大学で導入は進んでいるものの、日本の18歳人口の推移から市場規模の縮小が予想される。その一方で、クラウド化により場所や時間を超えて利用できる環境が生まれまた、パッケージソフトと違い輸送コストや在庫リスクがないという利点から、海外展開への道が開けた。

現在、台湾語版の「ナレロー」の開発に取り組み、台湾の高等学校で採用されることを目指している。岩手大学と高雄師範大学、及び当社の3者で共同開発を行っており、台湾の教育関係者を集めた有識者懇談会の開催、台湾での特許出願、商標の考案や登録など準備を進め、台湾の新学期が始まる2018年9月からの運用を目標としている。



岩手大学との共同研究から生まれたパッケージデザイン。これまで以上にアカデミックなイメージを強調した。

国内外でナレローのさらなる普及、拡大を目指す



「クラウド化により海外展開への可能性が高まった」と話す代表取締役社長の瀬戸山光宏さん。

今後は、クラウド技術のノウハウを活用して、全国の大学で情報リテラシー教育を受ける大学生、指導する教職員のさらなるニーズに応えるとともに、ICT教育が進む高等学校や中学校、小学校の教育現場での展開を

目指し、「ナレロー」の普及、拡大を推し進めていく。

それと同時に、「ナレロー」の多言語化を図り、経済成長が著しい東南アジアなど、マーケットの伸長が期待される海外地域での展開も視野に入れていきたい。